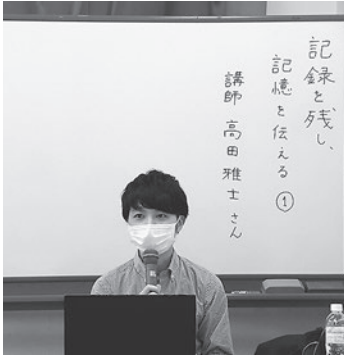


【講演要旨】地域資料講座

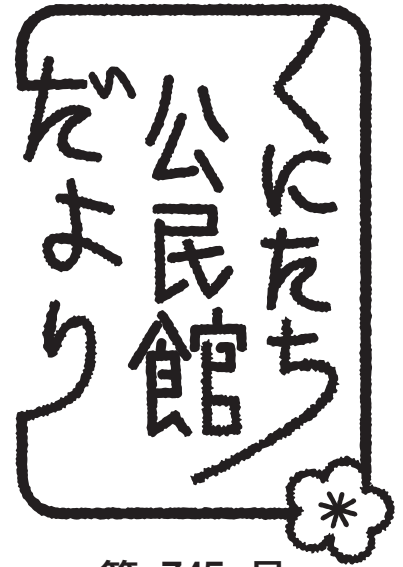
記録を残し、記憶を伝える
～地域資料からひも解く国立の歩み～

講師 高田 雅士 (2021年10月17日実施)



「記録」のなかには、たくさんの「記憶」が綴られ、残されています。昨年10月・11月の2回にわたり、公民館図書室蔵書資料などから研究をされている高田さんに、文教地区指定獲得をめぐる運動・1950年代の文化運動と公民館についてお話いただきました。今回は、特に好評だった第1回の講演要旨をお届けします。

地域資料をひも解きながら、当時の文化や時代背景、くにたちに生きる人々の息吹に触れていただければと思います。



第 745 号

2022年 3月 5日

(令和 4年)

「くにたち公民館だより」

ホームページの QR コード ▶



発行

国立市公民館

〒186-0004

国立市中1-15-1

TEL 042-572-5141

FAX 042-573-0480

休館日：毎週月曜日

■1950年代前半の文化運動の発掘

1950年代、特に前半という時期が、2000年代以降ぐらいから研究上注目が集まってきています。それまでこの時代は、基本的には占領期（1945年8月から1952年のサンフランシスコ講和条約によって日本が独立するまで）というくくりで研究がされてきました。一方で、朝鮮戦争を画期とする社会の変動というものについては、あまり考慮されてこなかったという事情があります。とりわけ朝鮮戦争の時代には、文化運動、サークル運動あるいは生活記録運動・生活綴方運動・うたごえ運動といった様々な文化運動が取り組まれていて、そういった視角から、1950年代の特に前半というものを問いただそうという動きが出てきたわけです。

ただ、1950年代に作成され

た資料の多くというのは、公的な資料所蔵機関にほとんど納められていないという現実があります。

■公民館図書室の地域資料

図書室に地域資料コーナーというのがあるのは御存じかと思いますが、戦後の国立の運動をめぐる資料、あるいはそのコピーがこの棚の中に数多く所蔵されていて、僕にとっては宝物のようなもので、ここはずっと一日へばりついていたいところもあります。それでもまだ全部目を通してはいるわけではない。実は、国立の地域の運動の拠点として公民館そのものが1950年代の文化運動の中で生み出されてくるというところが重要で、今日のお話にもつながっていきます。

これまで前提として、50年代の資料はほとんど残ってないということをお話ししてきましたが、国立市公民館には1950年代の文化運動に関わる資料が豊富に収蔵されているのが特徴的です。この間、文化運動研究というのが、歴史学だけではなくて社会学とか文学とか、様々な研究領域で取り組まれてきましたが、国立に注目している人ってほとんどいなくて、

これだけ資料が豊富にあるのに、それを有効に活用した研究というのがほぼないというのは残念に思

っていて、だったら自分でやってみようかなというのが始まりになります。

■50年代の運動と「国立会」

50年代の運動を考える上で、国立会について見ていきます。昭和天皇の即位大典を基に創立されたのが、国立会でした。国立地区83軒の家がほとんど入会して、主として冠婚葬祭の行事を行っていました。新しくできた地域だったので、例えば町のインフラが整っていないとか、生活する上で困難なことがたくさんあったり、新しく移り住んできた人たちが互いに親睦を深めようということなどで会ができて、国立地区に住んでいる人ほとんどが入会した団体でした。

戦争に入っていく中で、会則を改正し「本会は大政翼賛会の主旨を体することを目的とする」と戦時体制に順応することで存続を図っていったのですが、結果的にそれが仇となる形で、45年の敗戦によってGHQに解散を命じられました。ただ、警防後援会というふう

に改称することで、会の存続が図られました。1948年2月には、警防後援会の総会において、文化団体結成の促進というのを決議し、同年の5月には、設立準備委員によって

趣意書とか規約草案が発表され、7月31日に一橋大学で国立会の設立総会が挙行されました。

会のメンバーは、例えば、国立音大教授の中館耕蔵、一橋大教授の赤松要、弁護士池田由太郎、応善寺住職の松岡義雄ときく夫妻、考古学者の甲野勇。そうした国立地区在住の、いわゆるインテリ層が中心です。

その後、総務部、公安部、社会部、保健部、文化部、農事部、青年部、婦人部、といった各部が組織され、消防や警察の後援、貯水池の建設、街路灯の建設、修繕などの事業を行っていました。1948年8月には、文化部によって機関紙『国立文化』も発行するようになります。

国立会とそのメンバーが、当時考えていたことのひとつが、集いやいろんな取組をしていく上で拠点として公民館をつくりたいという事です。

もう一つは、図書館が地域になかったので、本を気軽に読めるように無形図書館というのをつくらうというものです。

ただ、国立会のメンバーの自宅に寄ってから、また本の所有者の家にまで足を運ばなくてはならない仕組みだったので不便さがありました。図書館を建ててもらおう

う、国立会を母体に運動をするようになります。

結果的に、図書館は国立駅前にはできず、公民館の中に図書室がわっているのですが、そういったところに帰結していくわけです。発足当初の国立会は、機関紙の『国立文化』を中心としながら、文化的な取組を進めると同時に、文化を支えるインフラとして、公民館とか図書館を整備していくという思考を有していたというのが、一つ重要な点だと思います。

■町名問題への取り組み

1950年1月に、町制施行に伴う町名問題で候補となった「国保町」に対し強い反対の動きが、特に国立地区から出てくるのが町名問題の発端になっています。

そういった中で、国立会と谷保村の青年団が対立していくことになりました。『国立文化』の7号に「分村運動も辞せず」というコラムが載っています。国立会側は、強い言葉で谷保村青年団を非難し、その後、青年団からの抗議と、『国立文化』内での謝罪というのが行われる、そういった流れがありました。

国立会側は、それまで地域政治というものにほとんど関心を払っ

てきませんでした。当時のリベラルな人からすると、地域の政治を論じるということよりも、例えば国の政治というものに対して関心が高かった。

早坂礼吾という公民館の初代館長になる人の聞き取り記録が残っているのですが、それを読むと、こうした町名問題をきっかけにして、自分たちの町のことを主体的に考えていかなければならない、そういった思いが国立会の人たちの中に芽生えたということも語っています。町名問題をきっかけにして、また新たな国立の運動というのが展開されていくことになりました。

■「パンパン」と米兵の問題化

町名問題をきっかけに、国立会、あるいは国立地区の人々が、自分たちの地域の問題を自分たちで解決するという動きが出てきました。50年代前半は、立川基地の周りで起きていた問題、特に「パンパン」と呼ばれていた女性と米兵の問題が国立側にも波及してきました。

国立会にも所属していた松岡きくの回想、『ちまたにひかりあふれて』を読みますと、朝鮮戦争が起ると立川の進駐部隊も増強され、国立町にも米兵が立ち現れるようになってきたと。それにつれて、

米兵と肩を寄せ合って歩く日本人女性の姿が、目立つようになってきたというふうになっています。

そういった中で、町の財政を潤すために町内に門前町をつくってそこに特飲街を設けるとい、そのことよって、いわゆる「パンパン」と言われている女性とか、あるいは米兵に向けた商売をする、そういったうわさも出てきたということでした。

そうなたら大変だということ、主婦たちが動き出した。彼女たちは、今のうちに何とかしなければ取り返しのつかないことになると、そういう危機感を持つようになっていったわけです。

■国立町浄化運動期成同志会の結成

その中でできていくのが、国立町浄化運動期成同志会というものでした。基本的には国立会に所属していたメンバーが中心ですが、国立会そのものとしては、例えば商店街の人とかも国立会に参加していて、いわゆる「パンパン」と言われた女性たちから利益を得たりしていたので、国立会としては浄化運動に取り組みない。そういう背景の中で、新しい運動団体というのが結成されていく。

町の現状に危機感を有していた

主婦や知識人、30人が応善寺で会合を開いて、国立町を米軍基地による環境悪化から守る浄化運動を起すことを決定しました。1951年5月の9日には、国立町浄化運動期成同志会というのを組織しています。ただ一方で、米兵などから利益を得ていた旅館業者とか、商店主との対立も次第に深まってきました。

そこで同志会のメンバーたちは、1950年12月に公布された東京都文教地区建築条例に注目して、次第にこの指定の実現というのを運動の柱に据えていきます。文教地区に指定されると、その地区には風俗営業取締法の適用を受けることになります。

51年5月24日の町議会では、浄化運動を満場一致で可決します。一方で反対派は、商店街の人々とか農村地区選出の議員、あるいはその住民を説得しながら、商工会にも働きかけることで、巻き返しを図っていく。同じ年の7月4日には町議会で反対派の請願が採択されて逆転し、最終的には8月9日の町議会で、反対請願が否決、却下されて、文教派が勝利する。1951年9月4日に、町は文教地区指定を都に申請して、同年11月30日に東京都都市計画審議会、国立町の文教地区指定という

のが可決されました。

翌年の2月1日には国立文教地区協会の発会式、会長に中山伊知郎一橋大学長、副会長には当時の町長だった佐藤康胤、国立音大の理事長中館耕蔵、そうした人々が中心になって、国立文教地区協会ができました。これによって、同志会は、発展的に解消されていくわけです。

■「浄化運動」にあてられている評価

こうした浄化運動あるいは文教地区指定獲得をめぐる運動に対して、どういう評価が与えられているのかということ、幾つか紹介します。一つは、中村政則という一橋大学に長く勤めていた経済学部で、『国立市史』の編さんにかかわられた方です。中村さんは、「浄化運動を通して、町民が自分の住む町を自分たちの力で変えることによって自信を強めた」という評価をしている一方で、自らの既得権益を失いたくない、現状維持したいという中産階層、インテリ層の現状保守的危機感が運動を根底で支えていたというふうな指摘をしています。

もう1人は金炳樹さんという方です。金さんが言っていることは、浄化運動の目標が基地反対ではな

く、「パンパン」の追放に設定されていた事実というのは、性を扱う主体、すなわち基地売春に対する米軍の責任が問われなかったことを示唆すると、そういう批判をしているわけです。「パンパン」と呼ばれた女性たちが、要するに軍隊の生み出す女性への性的搾取の問題だというふうには運動の中で捉えられなくて、「パンパン」の女性を風紀とか教育問題の元凶というふうには捉える主婦たちが、運動の中心となったと。そのことに對して金さんは、運動の限界性を指摘していることになりました。

個人的には、こうした評価が現在では重要なことというふうには思っています。

西田稔という、戦後立川に住んでいて、児童文学作家だった人がいるわけですが、彼は児童文学に励む傍ら、『日本児童文化』という雑誌を発刊し、立川の児童生活というのを見守っていました。立川の児童教育というのは、夜の女と言われていた人々の影響を度外視しては考えられないといった観点から、1948年の春から1952年の春まで、約5年間にわたって、「パンパン」と呼ばれていた女性たちの実態調査を行った人です。

西田さんがどういうふうと言っ

ているかというのと、「浄化運動が一時彼女たちを追い出すことに成功するだけで実効がない。類型的に多種多様の街の女の影響にそれに適応した対策がとれない。街の女を食い物にする業を放任したこれまでの浄化運動を人間同士、街の女を救い救われるという人間愛的自覚で行われず、一部市民の感情と、業者の利益確保の打算がなれあって、街の美観を守るという単なる形式運動に化す、などの盲点を残している(『朝日新聞』1953年2月21日付)。そういったことを述べているわけです。

浄化運動とか国立の形成というものを考える上で、そこから排除されていった人々の存在というの、改めて考える必要があるんじゃないかなというふうに思います。

■「浄化運動」が生み出したもの

ただ一方で、浄化運動が生み出したものとして、その運動に主体的に関わった人々の間から、土曜会とか、くにたち婦人の会という、新しい運動団体が生み出されてくる。こうした新しい運動団体の誕生が、この公民館の形成を考える上では非常に重要になってきます。

それまで国立会が主導していた文化活動の創造的な指導性というものは、こうした新しい運動団体に



よって発展されることになる。国立会は、次第にその後生まれた運動団体相互の情報集約的な役割を帯びるようになってきて、国立会そのものとして何か特徴的な取り組みをするというよりは、様々な運動団体の連絡機能的な役割を帯びていくようになっていきます。

1950年代の半ばに、土曜会を中心にしながら公民館を獲得していくという運動が起きて、結局、当時の佐藤康胤町長というのは公民館の設置を認めなかったため、国立地区側の保守系の人たちも、革新系の人たちも一丸になって、国立町政懇話会という政治組織をつくることで選挙を戦ったわけです。

この年、町長に当選したのが田島守保という保守系の人です。55年の選挙で国立では、保革を問わ

ないで国立側の人々が政治の実権を握り、それで公民館が獲得されていきます。その後、原水禁運動が国立でも活発に取り組まれる中で政治的な対立というものが持ち込まれ、国立の運動も分裂していくことになりました。

結局、50年代後半から60年代にかけて、国立の政治というのでも改めて保守系と革新系というところに分かれていって、結果的に67年の選挙で社会党の石塚一男が市長になるのですが、そこまで混乱が続きませんでした。その中で国立会というもの自体も、だんだん中身がなくなっていくって、いろんな人が抜けていく。

最終的に、国立会の事務所自体は1976年に撤去されて、国立会も消滅していきました。

しかしながら、1950年代前半の文化運動のなかで獲得されることになったこの国立の公民館は、長年にわたって市民の文化や運動を支える大切な基盤となっています。そうした意味で、あらためて当時の文化的運動とはなんであったのかを歴史的に振り返ることが重要ではないかと思えます。



〈図書室のつどい〉

高校教師、住まいを捨てる

お話 よしかわ けいすけ (会社員、ミニマリスト)

大学卒業後、地元の石川県金沢市の高校で常勤の英語教師をしていたよしかわさんは、約4年間で車やテレビ、冷蔵庫、洗濯機、500冊以上の蔵書など所有物の99%以上を手放しました。その後、住んでいたアパートを引き払い、「ゲストハウス」と呼ばれる旅人向けの簡易宿泊施設に滞在しながら、午前中は高校の非常勤講師、午後はベンチャー企業の社員として「複業」生活を送っていました。

現在は拠点を東京に移されているよしかわさんに、最小限の物で暮らす生き方や、物や住まいを手放したからこそ学べたことなどをお話いただきます。大量生産・大量消費の在り方を見つめ直し、少ない物で心豊かに生きる考え方を学ぶ機会にしたいと思います。※「ミニマリスト」とは自分に必要な最小限の物だけで暮らす人を指し、「最小限の」という意味の「ミニマル」から派生した造語です。

〈よしかわさんの本〉表題作 (河出書房新社)



とき 4月2日(土) 昼2時～4時

ところ 公民館 地下ホール 定員 40名(申込先着順)

申込先 3月9日(水) 朝9時～ 公民館 ☎ (572) 5141

第58回東京都公民館研究大会

地域課題解決学習をつくる

～市民と職員をつなぐ対話とは～

東京都公民館連絡協議会(以下、都公連)主催の研究大会が開催されました。今年度もホームページでの動画配信と事例報告等の掲載となります。

公民館の役割とは学習の成果を実践へと発展させ、地域課題の解決に向けた活動を、市民が主体となり行えるよう支援することです。コロナ禍の現在、これまで以上に対話や交流に基づいた新たな連携を作る技術が求められるのではないのでしょうか。今大会は、学習の実現のために新たな連携を作り、関係者とともに地域に新しい働きかけができる市民や職員になるための取り組みや挑戦を模索します。

参加方法 都公連ホームページに掲載された、基調講演の動画、主催者及び来賓者の挨拶文、課題別集会の事例報告及び助言者のコメントを、各自ご覧ください。

※参加費は無料ですが、動画視聴に伴う通信料は視聴される方のご負担になります。

アクセス <https://tokyokouminkan.wixsite.com/tokoren>

掲載期間 2022年2月24日～2023年1月31日

■基調講演 田中 雅文さん(日本女子大学教授)

■4つの課題別集会

- ① 公民館にとってのオンラインとは
- ② 社会教育士の役割
- ③ 公民館における社会教育実習のあり方について
- ④ コロナ禍を乗り越えた公民館活動



都公連HP

シネボックス CINEVOX 公民館映画会

『アントニー・ガウディー』

勅使河原プロ 1984年 カラー 72分 ※16ミリ版

監督 勅使河原 宏

撮影 瀬川 順一

音楽 武満 徹



サグラダ・ファミリア(聖家族教会)やグエル公園など歴史的偉業といえる数々の建築物で知られる、スペインが生んだ20世紀最大最高の建築家アントニオ・ガウディ。空間芸術の極致ともいえるその作品世界に、『砂の女』『利休』など独自の映像世界を創出し続けた鬼才・勅使河原宏が挑む。

とき 3月27日(日) 昼2時～(開場昼1時)

ところ 公民館 地下ホール

定員 40名(申込先着順)

申込先 3月10日(木) 朝9時～ 公民館 ☎ (572) 5141

*事前申し込み制となっています。必ず電話もしくは窓口にて事前にお申し込みください。

*新型コロナウイルス感染予防のため、途中で10分程度、換気のための休憩を設けます。ご了承ください。

*フィルムの劣化による退色や映像の乱れなどがある場合がありますので、ご了承ください。

〈男性の料理入門・春休み特別企画〉



スピードパン!



講師 北川 みどり(管理栄養士)

初めてでも大丈夫。簡単な方法でパンを作しましょう。オープン以外に、オープントスター、フライパン、魚焼きグリルでも焼けます。基本のパンとウインナーパン、コーンパンを作る予定です。

※新型コロナウイルスの感染状況により、その場で飲食はせずご家庭に持ちかえっていただく場合がございます。

とき 3月27日(日) 朝10時～昼1時

場所 福祉会館 3階料理講習室

定員 保護者と子どもの4組(計8名) 申込先着順

費用 1組1000円



3月18日(金)までに公民館へお支払いください(受付時間:月曜日以外の朝9時～夕5時)。当日のお支払いはできません。食材購入後のキャンセルは実費をご負担いただきます。中止の場合や、余りが出た場合は返金いたします。

持ち物 エプロン、三角巾、筆記用具 ポリ袋(ゴミ持ち帰り用)、ふきん2枚(台ふき用、皿ふき用)

申込先 3月8日(火) 朝9時～ 公民館 ☎ (572) 5141

〈ワークライフバランス講座〉
フィンランド、ゆとりのある生き方
～なぜ午後4時に仕事が終わるのか～

オンライン
受講可能

講師 堀内 都喜子 (ライター・フィンランド大使館)

日本は「働き方改革」を促進し、長時間労働の抑制などを
目指していますが、帰りたくても帰れない雰囲気や、休暇
や休業を取得しづらい組織風土があるとされています。

フィンランド人は、仕事も家庭も趣味も勉強も、何に
でも食欲で、睡眠は7時間半以上、夏休みも1カ月、有給休
暇の消化率100%、午後4時を過ぎると瞬間にオフィス
から人がいなくなります。首都ヘルシンキはヨーロッパの
シリコンバレーと呼ばれる一方、2019年にワークライフバ
ランスで世界第1位となりました。

日本とフィンランドは自然豊かであり、少しシャイで真
面目、謙虚な性格の共通点もありますが、休みの意識や組
織内の関係性などに大きな違いを感じると堀内さんは話し
ます。幸福度、4年連続世界一のフィンランドを参考にし
て、私たちの目指すべき働き方を考えたいと思います。

とき 3月27日(日) 昼2時～4時
ところ 公民館 3階講座室
定員 会場受講：25名、オンライン受講：30名
※いずれも申込先着順

申込先 3月8日(火) 朝9時～3月24日(木) 夕5時
会場受講：公民館 ☎ (572) 5141

オンライン受講：sec_kominkan@city.kunitachi.lg.jp
オンライン受講申込みメールに以下を明記ください

件名：ワークライフバランス講座
本文：①氏名 ②ふりがな ③住所 ④電話番号

※当日、参加者側の環境における接続や音声・映像の不具
合のお問い合わせには対応できません。ご了承ください。

ひろば



(6ページにもあります)

水泳「とびうお」会員募集

コロナ禍の折、健康維持、体力
増進に塩素使用の温水プールで楽
しく、元気に泳ぎましょう。会員
指導者すべて女性。レベル別に指
導。体験水泳可。

日時 毎週火曜日 昼12時～2時
場所 総合体育館 室内プール
連絡先 可知 (572) 1875

フルーツ会員募集「桜音の会」

秋の市民文化祭での演奏会に向
けて、1年かけて曲を仕上げてい
ます。フルーツの好きな方、私達
と一緒に合奏を楽しみませんか？
日時 第2・4火曜日 夜6時～
場所 富士見台地域防災センター
連絡先 橋本090 (7178) 6380
メール funkyhassy@gmail.com

ソフトボール 国立カングル

ウィンドミルの本格ソフトボー
ルチームです。経験者も初心者も
大歓迎。男女も問いません。練習
も大会も真剣に楽しませよう。練
習年費12千円(分割OK)

日時 毎週日曜日 昼1時～
場所 国立第四小学校校庭
連絡先 高梨070 (3202) 0080

国立あひるグループ会員募集

アカペラ女声三部のコーラスで
す。未経験でも大丈夫。みんな
声を出して音楽を作るのは楽しく、
何より心身を元気にしてくれます。
会費月3千円。見学歓迎です。
日時 毎週金曜日 昼1時～
場所 公民館 地下ホール
連絡先 清水 (575) 4383

国立茶道連盟会員募集

流派を越えて茶道の交流をして
います。長い歴史の中で育まれて
来た様々の所作を一緒に楽しみ
ませんか。流派、個人の方、サー
クルを問いません。

日時 市民文化祭等随時
場所 公民館他
連絡先 新井090 (3516) 0994

「コロナ禍における公民館の役割」
アンケートご協力をお願い

第33期公民館運営審議会では、公民館長からの諮問
「新型コロナウイルス感染拡大時における教育機関とし
ての公民館事業について」に定めるため記録・検証を
進めています。2020年4～5月の閉館を含めコロナ禍
において公民館を利用されている個人・団体のみなさん
への活動の影響について、アンケートにご協力をお願
いします。たくさんの多様な声をお聞かせください。
対象：公民館を利用したことのある個人・団体

回答方法：個人用アンケートは右QR
コードから
※団体用アンケート用紙と、筆記で
回答できる個人用アンケート用紙は、公民館窓口で
配布しています。



第33期国立市公民館運営審議会／公民館

公民館運営審議会報告

2月8日(火) 第33期第16回定
例会を開催。委員14名、館長、職
員2名出席。傍聴者4名。
○ 両宮教育長と意見交換をした。
○ 処務規則の第3条について
○ 館長人事の要望書について
○ 公民館の役割について
○ 社会教育学習・生涯学習が地域課
題解決、市民の生命を守ることに自
主的な学びの展開を考える。
○ 回答は持ち帰り

前回議事録確認

議事録の若干の修正を確認し
た。

報告事項

○ 公民館だより編集研究委員会

(編集研)、社会教育委員の会、
東京都公民館連絡協議会(都公連)
について報告があった。

協議事項

○ 諮問「新型コロナウイルス感染
拡大時における教育機関としての
公民館事業について」答申に向け
て、記録班、アンケート班、検証
・提言・文案執筆班の各班より打
合せ内容と進捗状況の報告、アン
ケートは公民館だよりにも掲載さ
れる。団体用と個人用と分ける。
QRコードからも記入できるよう
になった。

次回定例会は3月25日(金)夜
7時15分から地下ホール。感染予
防の上、傍聴歓迎。

(山根)

ひろば

(5ページにもあります)



水の探検隊 くにたち湧水散策

春の矢川はサラサラいくよ。桜守の大谷和彦さんとママ下湧水、矢川緑地を歩きます。木五倍子ってどんな花？見て触って嗅いで感じよう。参加費500円。要予約。
 日時 3月6日(日) 朝9時半集合
 場所 矢川駅北口エレベーター前
 連絡先 酒井090(6039) 2134

マインドフルネスを楽しむ会

アメリカのグーグルやフェイスブック等大企業の研修でも取り入れられているマインドフルネスを体験してみませんか。費用無料。お気軽に誰でもお越しください。
 日時 3月13、20、27日朝10〜12時
 場所 公民館 講座室
 連絡先 酒井080(5880) 3095

くにたち国際友好会 WING

3月の国際理解講座はロシア諸々について一橋大学留学生ジュニア・ティムールさんにお話しいただきます。オンラインで行いますので事前に申し込みして下さい。
 日時 3月20日(日) 夕5時〜7時
 場所 Zoomで行います
 連絡先 和田090(3497) 2110

今月の公民館 (3月〜4月上旬)

- 13日(日) 朝〜 親子で遊ぼう・考えよう
「おもしろ逆再生ムービーをつくろう」
- 26日(土) 昼 ★図書室のつどい 『山に生きる』
- 27日(日) 朝 男性の料理入門 「スピードパン」
- 27日(日) 昼 シネボックス CINEVOX 『アントニー・ガウディー』
- 27日(日) 昼 ★ワークライフバランス講座
「フィンランド、ゆとりのある生き方」

4月2日(土) 昼 図書室のつどい
『高校教師、住まいを捨てる』

★はオンライン受講可能の講座です。



講座の開催状況などに変更があった場合は、公民館入り口付近への掲示や、ホームページでお知らせいたします。ご不明の点はお問合せください。
 公民館 ☎(572) 5141

公民館の状況▲

5月(ロビー6月分) 会場調整会のお知らせ

申込書のポスト投入期間	3月5日(土)〜24日(木)
公用使用の貼り出し	3月10日(木)頃
予約の重なるのあった団体の掲示開始日	3月26日(土) 重なり状況▶
会場調整会	4月2日(土)朝10時〜

※会場調整会は朝10時までに受付を済ませてください。

〈サークル訪問365〉 PWFクラブ

謎のサークル、「PWFクラブ」。名前から活動内容が全く想像できない。ネットで検索すると「太平洋沿岸レスリング同盟」がヒットした。脳内にマッコイ集団が浮かぶ。来たる取材当日、恐る恐る活動場所へ。

「こんばんは〜！」と、張りのある声が出て、続々と入ってくる、総勢十一人のマダムたち。和やかに世間話をしつつも、準備を進める手は止まらない。「私たち、もう参加して長いから！」「もう生活の一部みたいなもんよねえ」と、突っ立っていた私にも色々教えてくれた。なんでも、遠い昔、国分寺市で行われた「働く人のための女性講座」がきっかけで始まったサークルらしく、その当時からずっと参加している方も多いそうだ。サークル名の由来を聞いてみた。「プリティ・ウーマン・フィットネスクラブ」で「PWF」だそう。なるほど、ぴったり！

講師は岡本公子さん。なんと戦時中の生まれ。「大変な時代に生まれたから、思い切り生きなきゃね！」と、快活に笑う。長年、健康運動に関わってきた大ベテランである岡本さんの指導は、驚くほ

ど的確で合理的。「〇〇骨と▽▽骨が固いとここに負担がかかるから、ここを動かしてこの筋肉を緩めましょう！」と、一つ一つに説明が入る。何に効果があるのか自覚すると、自然と一つ一つの動きに熱が入る。シンブルに見えた運動も、正しく丁寧に動かすと、けっこうキツかったりする。「ぶらついているよ！お若いの！」と激が飛ばされた。運動なんていつぶり？という感じの筆者の体は、思っていたより固まっていたようだ。ひと通りの運動が終わると、なんだか体がほかほかして、軽くなったように感じた。運動、大事。

PWFクラブでは、一緒に活動するプリティウーマンを絶賛募集中。興味のある方はぜひご連絡を。
 日時 毎週水曜夜7時半〜9時
 場所 公民館・向陽ビル
 連絡先 河合(572) 0426

〈文・写真 大久保芽衣〉



先生(中央)の声かけに合わせてテンポ良く身体を動かします